

新潟市中心市街地先進地視察

～一方通行解除と新たなまちづくり～

秋田市中心市街地活性化協議会は2月3・4日に新潟市の中心市街地を視察した。

3日には新潟市中心市街地活性化協議会と懇談会が開催され、新潟商工会議所の岡副会頭は、「全国的に中心市街地の衰退がいられているが、新潟市も同じ状況にある。まちづくりはやればやるほど大変さを感じているが、今だからこそ中心市街地の活性化を真剣に考えなければいけない時期である。」と



新潟商工会議所 新潟中心市街地活性化協議会との懇談

述べた。また、那波副会頭は、「秋田市もまちづくりであがいている。今、当所では中央街区の交通体系を検討する委員会を設置し、昭和48年から実施している一方通行の必要性やまちづくりを踏まえて交通政策や交通環境の問題を検討している。一方通行規制解除をしている新潟市からたくさんのことを学んで行きたい。」と述べた。

交通規制が解除

新潟市の一方通行解除の経緯について新潟市都市交通政策課係長今井健二氏の説明では、「新潟みなとトンネルと柳都大橋が開通して、新潟島地区へのアクセスがスムーズになり、交通政策のあり方について検討する必要があるという声があがり、平成18年3月に新潟市が『新潟島中心部交通政策検討協議会』を設立した。何十年も慣れた一方通行を解除することで、交通の安全性が確保できるか心配だったが、一週間で解除が当り前のような交通の流れになっていた。来街者からは、迂回が無くなりわかり易い交通環境になったと好評であり、地域商店街へ人を呼び込む仕掛けとなっている」と説明した。

また、新潟市上古町商店街振興組合専務理事酒井幸男氏より、「一方通行規制解除前は、商店街界隈はタクシーや代行車の待ちが多く、来街者から苦情が



上古町商店街視察

多かったが、規制解除後は待ちの車が排除され、商店街への人流れも変わってきている」と述べられた。

商店街に賑わい戻る

新潟県県政記念館と新潟市上古町商店街を視察。上古町は平成16年にまちづくり推進協議会を立ち上げ勉強会を開催、平成18年に4つの商店街が団結し、商店街振興組合を設立した。最初に取り組んだのが上古町のマーク「カミフルマーク」の作成。その後、商店街の情報地図「カミフルチャンネル」を作成、配布をした。また、「コミュニティサロン」を設置し、イベントや文化教室を開催することで、来街者が増え、賑わいが戻っている。



カミフルマーク

4日は新潟市都市政策部新潟駅周辺整備事務所を訪問し、新潟駅周辺の整備計画の概要と周辺地域の現状と課題等について説明を受け、今年の2月26日に新潟駅南口に完成したLEXN(レクスン)については3棟の施設建築物があり、商業施設・業務施設・住宅施設・自走式立体駐車場から構成されている。商業施設には飲食店のほかテレビ局のサテライトスタジオが入居することとなっており、スポーツ施設の入居とあわせて幅広い世代が集える場所になると期待されている。



新潟市都市政策部新潟駅周辺整備事務所訪問